

長崎

(長崎県長崎市)

注目ポイント！

市民が企画・実施する、日本ではじめてのまち歩き博覧会を開催。
長崎と中国との交流の歴史を礎に、民間と行政が協働し、長崎ランタン
フェスティバルを開催。百年続く祭りを目指す。

ランタンフェスティバルの参加者が約15万人から86万人に！
(平成5年) (平成17年)



長崎市街地

コラム

長崎新地中華街で中国の旧正月を祝う祭りとして行っていた「春節祭」を、観光客が誘致できる大規模な祭りにしようと、関係者などに理解と協力を得るため尽力。平成6年に第1回目の「長崎ランタンフェスティバル」を開催し、年を追うごとに、より大きく、より美しく、より本物志向の祭りに成長させてきた。現在も、企画幹事会幹事長として中心的な存在。長崎県観光マイスターにも認定されている。



観光カリスマ
林 敏幸氏

これまでの経緯

- 平成 6年(1994) 長崎市、長崎商工会議所、長崎国際観光コンベンション協会などが参画して、長崎新地中華街の春節祭の規模を拡大し、長崎ランタンフェスティバルをスタート。
- 平成 8年(1996) 出島和蘭商館跡の復元整備事業がスタートする。
- 平成13年(2001) 長崎ランタンフェスティバルが第5回ふるさとイベント大賞(財団法人地域活性化センター主催)・優秀賞を受賞する。
- 平成16年(2004) 長崎市観光2006アクションプランの提言を受け、長崎さるく博 06プレイイベント開催。
- 平成17年(2005) 長崎さるく博 06プレイイベント第2幕開催。「浦上街道・異国情緒と坂を巡るみち」が地域ブランディング大賞(近畿日本ツーリスト主催)・観光まちづくり奨励賞を受賞する。
- 平成18年(2006) 長崎さるく博 06が開催される。

主な取り組み

まち歩きが長崎の観光を変える

長崎は観光都市として知られてきたが、近年は観光客数が減少。そこで、まち歩きに着目し、「長崎さるく博 06」を開催するに至った。

「さるく」とは長崎弁で「ぶらぶら歩く」という意味。さるく博は、日本と中国、西洋の“和華蘭”文化が混在する「わからんまち」を歩いて、その魅力を再発見しようというイベントである。興味の程度に応じて、広く深く長崎を味わう3つのまち歩きメニューを設定し、グラバー園や出島などでの会場イベントや19の記念イベントも開催。街全体が博覧会会場、散策コースがパビリオンである。

市民プロデューサーが中心となり、観光ポイントを洗い出してコースを決め、マップを作成した。また、さるくガイドの登録者約350名は日本最大級である。一般市民も「自分のまちを知ろう」「まちをきれいにしよう」など、いろいろな形で参画。まさに、市民主体のイベントになった。

さるく博は、一過性のイベントではない。まち歩きを長崎観光の柱の一つにするきっかけづくりである。長崎は、豊かな観光資源を活かして、何度でも行きたくなるまちを目指す。



長崎通さるく



長崎学さるく

長崎ランタンフェスティバル

オブジェや飾り燈籠など15,000個のランタンが長崎の夜を鮮やかに演出。皇帝パレード、媽祖行列、龍踊り、中国獅子舞など中国色豊かなイベントのほか、手作りランタンコンテスト、中国ダンスフェスタ、会場周遊スタンプラリーなども実施している。イベント運営、会場警備などの多くは延べ5,000人にも上るボランティアによる。



湊公園会場

出島

鎖国時代は西洋に開かれた唯一の窓口として、日本の近代化に大きな役割を果たした「出島」。その歴史的価値を残そうと、出島復元事業が進行している。10棟の建物が完成し、19世紀初頭の町並みが姿を現した。



復元された出島の町並み

問い合わせ先

長崎さるく博推進委員会事務局

Tel : 095 - 832 - 2036 <http://www.sarukuhaku.com>

長崎市観光宣伝課

Tel : 095 - 829 - 1314 <http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp>